

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
28	川崎市立 東高津中 学校	西村 昌也

学校教育目標	今年度の重点目標
「知・徳・体の調和のある豊かな人間性と、未来を創造するたくましい実践力を持つ生徒を育成する。」・自らを求め、創造的な知性と技能を身につける人・思いやりのある人間愛豊かな人・強い意志を持ち、責任感と勇気のある人・心も体も明朗で健康な人・郷土を愛し、国際性豊かな人	「人に優しい学校作り」を中心に据え、生徒に寄り添った適切な指導の実践、授業力向上、創立40周年記念事業と関連し地域や保護者と連携した取組の充実を図る。そのために、(1)豊かな心と健康な身体の育成 (2)基礎・基本の定着と確かな学力の育成 (3)支援教育の充実 (4)積極的な生徒指導の充実 (5)家庭・地域との連携に重点をおき、学校教育目標の実現を目指す。

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 豊かな心と健康な身体の育成	総合的な学習の時間における「SDGs」を柱とした探究的な学習の充実と推進を図る。	各学年で「SDGs」の視点から、事前学習・実地踏査・事後学習を通して、探究的な学習を進めることができ、将来のために自分たちに何ができるかについて考えることができた。	学びの継続によるより深い探究的学習を目指し、総合的な学習の時間で「SDGs」を柱とした学習の充実をさらに推進する。持続可能な社会を創る資質・能力を育成し、将来の問題に自ら学び考え行動できる人間の育成を目指す。
2	生徒主体で学校行事を企画・運営することで生徒活動の活性化を促し、活動を通して互いの良さを認め合い、自己肯定感の向上を目指す。	創立40周年の節目として、体育祭や文化祭、合唱コンクール、創立40周年記念式典、新たな生徒会活動など多くの行事を生徒が主体となって企画・運営し、活性化を図ることができた。活動を通して、生徒同士が互いに認め合い、思いやりの心の育成を図ることができた。	市学習状況調査の結果で、約7割の生徒が「自分にはよいところがある」と回答している。さらに生徒の自己肯定感を向上させるために、生徒が中心となった学校行事の工夫を生徒会を中心に図っていく。また、生徒ひとり一人が輝き、互いに認め合える機会を増やしていく。
3	農家生活体験学習、自然教室、修学旅行における体験活動を充実し、特色ある教育活動の推進を図る。	学年ごとに宿泊行事を実施し、目的に応じた体験学習の充実を図った。自然を愛護する心の育成、農業体験からの広い職業観の育成、日本の伝統文化を継承する心の育成、自主・自立の精神の育成など、成果は大きく、本校の特色ある教育活動の推進ができた。	3年間の継続した宿泊行事は、自主・自立の精神の育成、主体的に学ぶ態度の育成、人を思いやる心の育成について大きな役割を果たしている。特に、農家生活体験学習は、大変貴重な体験学習であり、本校の特色である。今後も継続・発展させていきたい。
4 基礎・基本の定着と確かな学力の育成	校内授業力向上研修のテーマを「主体性を育む授業づくり」とし、主体的・対話的で深い学び視点から各教科等で授業の在り方を振り返り、「動機づけとフィードバックの工夫」観点から授業研究を実践する。	授業力向上週間を年2回実践し、研究授業や研究協議を通して生徒に身につけさせたい資質・能力をつけるための手立てや工夫を、全教員で考えることができた。共有する機会を設けたことで、教科横断的な視点からも工夫を考えることができた。	授業力のさらなる向上を図るため、全国学力・学習状況調査や市学習状況調査からの分析を生かし、生徒の実態に応じた指導法の研究を継続する。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、教科等を超えて研究する機会を設ける。
5	かわさきGIGAスクール構想におけるGIGA端末の有効活用とわかる授業の実践を図る。	各教科等でGIGA端末の活用方法を研究、実践し、有効性について情報共有を行いながら、わかる授業の実践に取り組んだ。その結果、学校評価アンケートで「授業はわかりやすい」と肯定的な回答をした生徒は、約9割であった。	GIGA端末の活用方法をさらに発展させた取組について各教科等で研究を深めていく。生徒がつながる授業づくりや自ら振り返り課題に気づき主体的な学習につながる授業づくりを目指す。
6	支援教育の充実	SCや外部機関との連携し、支援教育COを核とした校内支援体制を充実する。	生徒の教育的ニーズの多様化から、支援教育COを中心に支援体制の見直しや支援方法の共通理解を丁寧に行う必要がある。また、SCとの情報共有、外部機関との連携を密にし、早期対応の実施を目指す。
7 積極的な生徒指導の充実	教育相談を定期的実施し、生徒の心に寄り添った生徒理解に基づいた生徒指導を充実する。不登校生徒へのきめ細やかな支援の継続と家庭・外部機関と連携した支援体制の構築を目指す。	年3回の教育相談アンケートの実施、教育相談週間の設定、日常的な教育相談等、生徒理解を重視した継続的な取組を実施した。「個々の生徒に適切な指導」を念頭に学習室の活用促進、課題を抱える生徒に対して複数でのきめ細かい対応等に全職員で取り組んだ。	生徒ひとり一人の個性や特性、意思を尊重し、個に応じた指導を実現していくためにも生徒理解を促進する相談活動の充実を図る。全教職員で指導・支援方法を共通理解し、保護者と連携しながら指導・支援を実践していく。
8 家庭・地域との連携	地域の教育力を生かし、職場訪問学習、芋作り体験、地域清掃活動で地域やPTAと連携し共に活動する。また、地域・PTA・PTAOB会(東の会)と連携した創立40周年記念事業の実現を図る。区民祭等、地域主催のイベントに参加し、地域貢献を図る。	地域の職場での職業体験活動、PTAや地域団体と協力して芋作り地域清掃を実施し、地域の人と触れ合うことで働く目的や意義について考えることができた。創立40周年記念事業を関係者と協力し実施することができた。高津区民祭に尽東団(応援団)が地域の一員として参加した。	職業体験、芋作り体験、地域清掃など地域・保護者等と連携した取組を継続し、開かれた学校づくりの実現を図っていく。また、こども文化センターや区民祭などイベントに積極的参加し、さらに地域との繋がりを活性化させていながら、HP等で情報発信を行っていく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育目標の実現のための具体的な取組や体制づくりに概ね高評価ではあった。特に、創立40周年記念事業では、今までのPTAや現保護者、学校が協力し合って実現できた事業であり、生徒の思いや発表もとても良かった。</li> <li>・学校評価アンケートの結果を見ると、同じ質問項目に対して生徒と保護者、教職員で評価に差があることが気になった。生徒の思いが保護者、教職員とも同じ思いとなることが望ましい。</li> <li>・礼儀正しい生徒や丁寧な対応をする生徒も多い。中学生が挨拶をしてくれると、とてもうれしい。</li> <li>・授業を参観して、生徒は落ち着いていた。学校の周辺で見かける東高津中の生徒の様子も落ち着いているようで、安心した。</li> <li>・GIGA端末の教育的効果が大きいことを実感した。</li> <li>・今年度は、区民祭等に東高津中の生徒が参加してくれ、嬉しかった。これからも地域の行事に参加してほしいので、地域からももっと情報を発信して中学生の参加を呼びかけたい。</li> <li>・こども文化センター等、地域の活動に中学生が積極的に参加したり、色々なことを教えてくれたりすることはとてもいいことである。これからも参加してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケートの結果から、生徒・保護者の教育活動に対する満足度は全体的に高かった。学校説明会等で学校教育目標や重点目標、各宿泊行事説明会で目的について説明し、ねらいを共有しながら協力して活動してきた結果と捉えている。</li> <li>・「基礎・基本の定着と確かな学力の育成」に関しては、教員の授業力向上を目指し、校内研修や校外での多種・多数な研修を通して、授業改善に取り組んできた。学校評価アンケートで生徒が「授業がわかる」と約9割の生徒が回答していることから、成果があったと考える。生徒に育成すべき資質・能力をしっかり見据え、GIGA端末の有効活用、個別最適化した学びの実現、主体性を育む授業づくりを目指し、日々研鑽を重ねていきたい。そのためにも、授業研究の機会を多く設け、実践に則した研鑽を積み、個々の授業力の向上を図る取組を実践していく。</li> <li>・「人に優しい学校作り」を中心に据え、生徒や保護者、地域の思いを踏まえ、開かれた学校づくりをさらに推進していく。本校の特色ある教育活動をより充実させるとともに、ねらいを明確にし、地域・保護者と連携した教育活動、明るく活気のある学校づくりを実現していきたい。</li> </ul>